

「教会はキリストのからだ」

詩篇 第3章1節～13節
エペソ人への手紙 第1章20節～23節

説教 岡村 恒牧師

「教会はキリストのからだであって」(23節)、キリストが満ちみちている。これは聖書に記された、教会を表す力強い言葉です。

「教会(エクレシア、22節)」という言葉は、建物や人間の集団を指す言葉ではなく、キリストの命にあふれ、力と栄光に満ちみちている教会のことを言います。全世界をお造りになり、私たち一人一人の髪の毛一本まで知り尽くしておられる全能の神の力が、教会にあふれている、と言うのです。これは、信仰の目をもって見る時に初めて知ることができる真実です。

「キリストの充満(プレローマ、23節)」という言葉について思いめぐらしながら、若い日の苦い思い出を思い出しました。自分の中に、どうしても満たされない思いを抱えていた頃の話です。このプレローマという言葉は「成就」とも訳されます。神の言葉が成就する、実現する。何一つ欠けたり、もれることなく、神のみ心が100%実現する。これが「プレローマ(充満)」です。

私たちの人生も、この世界も充満を求めています。様々なものを捜し求め、必死で努力しても、どうしても手に入らないものがあり、欠乏と空虚を抱えています。世界の平和、家族間の平和、個人的な充足、そうしたものを誰もが求めながら、私たちは満たされずにいます。人は「生まれながらの怒りの子」(エペソ人への手紙 2章3節)と聖書が語る通り、神に敵対し、神によって満足を与えられることを願うことさえできない私たちの姿を、聖書は「罪人」という言葉で言い表すのです。

エペソ人への手紙1章は、宇宙的なスケールで、この罪人である私たちを救い出す神の力を描き出しています。天地創造の前から、私たちを選びとり、やがて終わりの日に主イエス・キリストの名前をすべてのものの上に置いて私たちをそのみ名のもとに迎え入れて下さると語り、教会に働く神の力を描いています。私たちの日常の空虚を、魂の奥底の欠けを、神が世界史的なスケールで満たして下さいなのです。

今朝の御言葉には、「神の力」という言葉が、登場しています。目には見えない「力」が、具体的な出来事で見えるようになるという話して

す。りんごが木から落ちるのを見て、重力が目に見えるように、私たちを救わないではおかない神の力が、ある一点において目に見えるようになったのです。主イエスの十字架において、主の死と復活において、この神の絶大な力が目に見えるのです。神に関係のない存在として、裁かれ、滅び去るはずの私たちが、ただ主イエスの十字架の死によるあがないのゆえに、罪赦されて、神の子と呼ばれるのです。

主イエスは、父なる神と等しいお方です。天地が造られる前から父なる神と共におられ、無が有を生ぜしめることができるお方です。この全知全能の神には、何も欠けたものはありません。この神と等しい主イエスが、主を信じる者と離れ難く結びついて、一人一人を満たして下さいなのです。

からだ全体は一つの命を生きるものです。キリストを信じて洗礼を受けた者は、このひとりのお方を信じ、一つの命を共に生きるという仕方で結び合わされ、生きるようになります。一つの体には、同じ血が駆けめぐります。主イエスに結び合わされるというのは、切っても切れない仕方で主と結び合わされることです。地上では離れて礼拝生活をしていても、地上の旅を終えて眠りについていても、同じ一つの命を共有している、というこの真実は変わることがないのです。

私たちが救わずにはおかない神の絶大な力が、教会を満たし、教会からあふれ出ています。教会において、キリストの命と慰めを皆が共有しています。そこに結び合わされている私たちの人生のどの瞬間を取っても、キリストと無関係な瞬間などありません。だから、誰でも主イエスを信じる者は滅びることがありません。まことの命と切り離されることがないからです。

恵みとまことに満ちている主イエスが、教会のかしらとしてそのからだと結びつき、満たしておられます。私たち自身の、あるいは自分の人生の空虚を、主イエスはよく知っておられ、満たして下さいます。主の命を溢れさせて下さいます。

(記 岡村 恒)